

第4回宇陀市総合計画審議会

日時：令和4年1月28日(金) 午前10時00分～

場所：農林会館

1. 開会

鴻池副市長：

本日は、公私ともお忙しい中、総合計画審議会にお集まりいただき感謝申し上げます。また平素は、宇陀市行政の推進にご尽力いただきありがとうございます。コロナ禍につき、パーテーションを置き、少し足元が寒いですが扉を開放して、コロナ対策に十分気をつけて審議会を開催させていただきます。さて、本日は第4回目ということで、いよいよこの審議会も佳境を迎えております。今回は、前回、各委員様からいただいている提案などについて、一旦、庁内の各部長で構成する委員会等で打ち合わせをし、その成果物を素案としてお示しさせていただいております。各委員様のご意見、ご感想、また、ご要望を賜り、より実効性のある計画にしていきたいと考えております。本日も忌憚のないご意見等をいただきますようどうぞよろしく願いいたします。

出席委員 18名

2. 説明

第2次宇陀市総合計画中期基本計画案について

- ・第1編 中期基本計画の策定にあたって
- ・第2編 基本構想
- ・第3編 基本計画

伊藤議長：

今、事務局の方から説明のあった内容について、委員の皆様からご質問、ご意見を願います。

三本木委員：

3ページの宇陀市の紹介の中段から下の所で、農業・林業のことを書いていただいている。「林業では、住宅の床柱に使われる磨き丸太が特産品となっています。」というところ、かつてはそうだったがこれは時代錯誤かなと思うので、少し違うものに変えていただければと思います。

松塚委員：

まず、49 ページ、15 歳未満の人口比率で、目標値が 10%になっているが、それは 2,000 人にするための数値ですか。今までの 9.14%や 8.57%なのが、急に 10%になっているのはどうということかと疑問に思います。

また、53 ページの施策の中頃で「高齢者が住み慣れた地域で生きがいを持って活躍できるよう、宇陀市シルバー人材センターや老人クラブ等の活動を支援」となっていますが、シルバー人材センターだけでなく野菜売場などで従事している方もおられると思うので、そういう方に対する支援も入れてもらったらどうですか。

71 ページでは観光入込客数を 2,000 千人の目標とされていますが、宿泊客数の方はどうですか。一応目標値を掲げた方がいいのではないかと思います。資料中には滞在型というような文言も書かれていますが、滞在するためには、宿泊が必要になります。他所で泊まってこちらに来るといった形を取るのか、その辺のことも少し考えたらいいのでは。評価指数の一つの考え方が載っていますが、数値的なものを用いるのであれば、宿泊客数も入れていただければいいのではないかと思います。

75 ページについて、県の方には担い手・農地サポートセンターというのがあり、農地を貸したい人と借りたい人のサポートをするという施策がありますが、これはいいことだと思います。市でも同様のものをやるか、それとも県に任せてやるのか。農地も色々空いていますが、まだ個人的にはなかなか貸しにくいということなので、基幹産業である農地についてそういったことをやっていただけるのならありがたい。宇陀市では、農業、林業、畜産が、昔は基幹産業であったが、経済的に今はどれくらいの状況なのか。農林業が産業の半分以上を占めているのか、実効的にどれくらいやっているのか聴かせていただきたい。

79 ページ土地利用の話について、事業拡大しようとしている人にとって、土地利用がしにくいという現状があります。それに関して、80 ページ 2 番の主な事業の 2 行目に「市街化調整区域内に地区計画を定め」と書かれていますが、地区計画を考え直すということなのか改正するということなのかどちらかが分からないので、その辺りを考えてもらえたらと思います。

81 ページで課題の最後に、「今後の宿泊施設のあり方を検討」と書いてあるので、しっかりと検討していただきたいと思います。

87 ページに児童の「よりよく生きる力」を育てるとあります。主な事業として「どの子どもにも分かる授業」の実現に向けた教職員の資質・能力の向上とありますが、全員が分かるようにすることは、一度に授業中にできるのかという疑問を感じます。1 回で覚える人もいれば、2 回、3 回かかる人もいます。どの子にもできるように教えるレベルを下げていくということになったら、全体に下がってくるのではないかと思いますので、そのあたりの考え方をどうするのが疑問に思います。また、たくさん教え方はあると思うのですが、道徳や倫理、善悪を教える場所はどこにあるのか。今までは家庭で教えていたが、家庭ではなかなか教えることは難しくなっています。昔は、道徳等学校でやっていたが、今も学校でやっているのでしょうか。そういう点をしっかりと教育していかないと、今の小さい子達は、自分の

ことばかり考えていくようになると思います。今、デジタル化が叫ばれていますが、小学生や中学生では SNS 等で全部情報を得ているという人が 50%以上のようなようです。つまり、不確かな情報を個々に入れている。個々の情報を個々に入れている。このままだと、フェイクニュースが蔓延する可能性があると思います。デジタル化するときには学校の教育も大事だと思うので、その辺のこともしっかり学校で教えてほしいと思います。

それから、96 ページ生活環境の整備・充実のところで、現在、ごみ収集時にプラスチック等を分別していますが、もう少し分別したら省エネ化できるのではないかと思うので、検討していただきたい。

最後に、100 ページの経常収支比率について、95%という数字には希望があるのか。それとも根拠があるのか。以前はシミュレーションをして算定したと思うのですが、今回のこの数字にも根拠があると思うので、聞かせていただきたい。

伊藤議長：

たくさん意見をいただきました。答えられるところから順に答えていただけますか。

事務局：

総合計画の 49 ページから 100 ページまでいろいろご意見、ご質問をいただきましたが、細かい数字、例えば農林水産業の全体の費用などは現在持ち合わせていません。今回は、計画の 6 つの目指すまちの姿の後ろにある約 400 近くの事業について、この場で委員の皆さまからの声について網羅できるように進めていきたいと考えています。例えば、最初にご質問がありました 49 ページの 15 歳未満人口比率や 100 ページにある基本目標は、2029 年、12 年先を目標に立てた中の 4 年間の中期計画の見直しというところです。基本構想は変えずに、中期の基本計画の見直しをしていただいています。その中で 10 年先の目標を示させていただいている。各々の根拠については、例えば経常収支比率の 95%に根拠があるのかというと、宇陀市の比率が高いから 95%くらいを目指そうということで数字を示しております。53 ページ、71 ページ、75 ページといろいろご意見をいただきましたが、1 つ 1 つなかなかお答えできないところもあります。今回お示ししている計画で文言の誤りや、どうなっているのか知りたいところを指摘していただきたい。例えば、宇陀市の宿泊について、前回のまち、ひと、しごとでは確か 4 万人を目指すというような目標数値を立てました。今回、具体的な数字はこの計画に載っていませんが、各々の施策の中には当然目標数値を持っているので、それについてまた検証いただく形でと思っています。前のまち、ひと、しごとのように何万人を目指すということは冊子には載っていないことはご理解をいただきたい。当然、市としても宿泊は必要だと思っていますので、この計画の 4 年間の間に何か目途が立てばと思っています。1 つ 1 つお答えさせていただけたらいいのですが、こういった形でフォロー的にお答えし、もしこの細かいところでここはどうなのかということがあれば再質問いただけたらと思います。

松塚委員：

一つ一つに対応していただかなくてもいいのですが、この400の項目について、まち、ひと、しごとと同じようにその時の計画に入れていただければいいと思います。それができたら、われわれが検証していく。もしそれらを入れなかったら何もかもそのままになってしまい流れてしまうので、下へ下ろしてもらって、質問したことや出来ることをこの中に入れて、その検証が出来るようにしてもらいたい。経済の発展と観光産業を発展のためには宿泊施設は大切と思っています。また、工場を増築したいときにできないという意見をいろいろ聞いています。計画はみんなが作ったものなので、守らなければいけないこともあるが、変えていくことはできるので変えていっていただきたい。農業なら良くて工場なら増やせないというのはおかしいと思うので、そのあたりを理解し、計画に入れて進めていただければありがたい。こういうことができないからよそへ移動してしまうとなると、せっかく育ったものが大きく育たない。その方が市にとって良くないと思うのでこの機会に改善してほしいと思います。これまで長年できてなかったが、市長が変わってできる可能性があるので、そういうことをしっかり対応いただきたいと思います。

伊藤議長：

貴重な意見を受け止めて対応をお願いします。ほかの委員の方、ご意見ご質問はないですか？

中野委員：

今回の案は前回11月の提案に比べて随分読みやすく、構成もわかりやすくまとめていただけたと思います。誤字が気になったので挙げておきます。12ページのSDGsの3番のところ、文章中、障害者の下に波線があります。24ページをみると、ここの下の宇陀市仕事づくり推進隊の文章の中に起業に向け、宇陀市に移住し定住し、この部分も誤字だと思います。それから、34ページに自然減の要因というのがあり、合計特殊出生率の推移というのがありますが、宇陀市が特に低いのは宇陀市特有の要因があるのですか、それとも人口比的な計算上こうなるのか。なぜこうなるのかが気になりました。

35ページ、2万人を目指す将来人口で、32ページに社人研の数字・表がありますが、この社人研の表と35ページの表の数字が若干違います。例えば総人口、35ページの表で総人口2020年のところが、28,079になっていますが、32ページでは28,121になっています。また、宇陀市の将来展望による階層別人口は、32ページの社人研のところに載っている数字と比べると、例えば生産人口の2040年は、社人研の方は6,724、宇陀市は9,956になっています。ここで生産人口が増えています。階層別を見ると全体的に人口が減って2万人になるのは分かりますが、その内訳について将来展望は説明つくのでしょうか。

44ページの中ほど、ピンクの3つ目に1・3・4とあるのは誤記だと思います。SDGsのどれに当たるかという表が47,48にあり、SDGsの7番のエネルギーの項目に該当するものが

2つあり、そのうち、3-2人材の確保や育成が該当しています。人材がエネルギーとどう関係するのか理由がわかれば教えてください。

55 ページ、就学前児の推移グラフでは 2016 年から 2020 年まで毎年の分を見ると、例えば 2016 年の 0 歳児は 137、その次の年には 1 歳児になり 149、次の年には 2 歳児 151 と児童の数は増えています。増加の理由がわかれば教えてください。

60 ページ、暮らしやすいまちのところで住みやすさランキングの目標がここへ書かれ、一位を目指すということが明示されていますが、以前に住みやすさランキングは評価指標からは外すと聞いていたのですがいかがですか。

以上、全体に読みやすくわかりやすい資料になっていると感じました。

事務局：

すいません。誤字や表示が間違っている箇所があるので、確認し修正をさせていただきます。34 ページの合計特殊出生率については、例えば 2019 年では、宇陀市が 0.96、県が 1.31、全国が 1.36 となっています。これは計算式に基づくと 15～49 歳の方が生む人数ということでこのような数値になっています。

35 ページと 32 ページの人口のところについては前回と変えず、2 年前に出した「2 万人を目指す」というところを維持しました。現実には、社人研の推移予測では 2040 年にはもう少し減る形になっています。ただ、2 年前に挙げた目標をもとに、今回はあくまでも中期の計画であり後期の計画も控えているので、その時に見直してはどうかということで、今回は当初掲げた目標のままにしています。ただ、35 ページの 2040 年では 20,000 を超え 20,418 人となっています。これは 2 万人を目標にするにあたって、その生産年齢人口を上げないと 20,000 にならないというところから作為的にしています。社人研の推移予測では、2040 年には 16,000 人になるとの予測なので、ここで約 4,000 人の差があります。このように、35 ページには宇陀市の将来展望を載せるという意味で、このような数字になるとご理解いただきたい。

55 ページ。グラフ読み取りの考え方は間違っておらず、例えば 0 歳の方が 137、翌年 149 となっています。増えているのは転入の関係でこういった数字になっているかと思います。60 ページの住みやすさランキングについては、削除させていただきます。48 ページの 7 番の SDGs が 3-2 に入っていることについては、再度、それぞれの事業が SDGs のどの項目に該当しているのかを確認させていただきます。SDGs については、資料の 11、12 ページの丸い円の中に 17 個の目標があり、この中にこういったものが該当しているのかを含めて確認させていただきます。

中野委員：

32 ページと 35 ページの細かい数字については、先ほどの説明で理解できるが、その中で一番気になったのは、宇陀市の将来展望では生産年齢人口が 35 年の 9,786 人に対し 40 年

には9,956人と上がってきている一方で、32ページの人口推移予測では8,360人から6,724人まで下がってきています。これを見る限り、人口に大きく反映する施策が期待されるので、この数字の意味合いは少し気になります。

仲浦委員：

54 ページの部分で検討してほしいところがあります。「2, 面倒見のいい地域福祉」とありますが、私の身近では40代2人の引きこもりがいるところがあり、両親ともに高齢になってきています。

地域の民生委員や児童委員などの地域に対する見守り、助け合いをする方々は3つの地域を担当していただけていますが、対象先に体の不自由な方も多数いらっしゃるなど負担が大きいようで、担当地域を絞らないとひとりで3つの地域を回り切れていないのか、民生委員の気持ちが伝わってきません。

今の民生委員の選び方は地域からの推薦ですが、地域で助け合ってくれる人を民生委員に選び、研修などもしっかりとさせていただきたい。

民生委員でない自分に高齢の方から「足が悪くなった」とか「近所の引きこもりの子の様子が気になる」などの相談を受けるのですが、「引きこもり」の対応など限界もあります。20年近くずっと引きこもっている人などは市で助けていただくとしても、実際に家庭訪問などをしてくださる民生委員の方々には専門の勉強もして活動してくださるような人選をし、きっちりした研修を実施してほしいと思います。

また、ひとりで3つの地域を担当するなどではなく地域に寄り添ってきっちりとしていくような提言に変更していただたい。色々な研修を積み重ねて、それにパスした温かい心の持ち主が民生委員や児童委員になるようにしていかないと「面倒見のいい地域の福祉を推進します」にはならないのではと思います。

事務局：

人選については3年に一回、自治会からの推薦で、国からの委嘱を受けて活動していただいています。

健康福祉部長：

自治会ごとに民生委員がいれば地域の実情がよくわかるのですが、民生委員の定数は国で決まっており、それを変えるのは難しい状況です。

民生児童委員は合併前の各地域で会議を開催しており、国、県からの研修については、コロナ禍で初期の研修が実施できていません。各地域の中で歴代の民生委員の方に相談していただきながら活動しているのが今の実情です。

また、引きこもりの問題は、今までの福祉の体制ではどこの分類にも属さない福祉問題でしたが、令和3年度から、宇陀市では「断らない福祉相談支援体制」を構築している

ところであり、民生委員だけで解決できない問題に宇陀市福祉部局が一丸となって対応する体制を構築していますので、今後個別に対応していきたいと考えております。

西岡委員：

民生委員のことが出たが、私も民生委員をしてきた中で色々な意見は聞いています。特に委員の変更の方法が問題で、現在は各自治会長が推薦するとなっています。

民生委員として活動できる人たちが思うように集まってこないのも残念だが、推薦の仕方についても要望していきたいと思っています。民生委員をやめていかれる方などを含めて自治会長などとの集まりで、推薦の条件など要望できる場があればいいという意見もあります。

ただ、民生委員がすべて求められるような活動ができるかは、個々の考えもありますし、人それぞれの持ち味もあるので、100%我々が思う「活動できる人」を選ぶのは難しいと思います。それぞれの場での研修などを通じ、また協議会の中で意見を出し合いながら少しでも活動できるようになってほしい。まずは推薦する自治会長にその要望をお伝えして少しでも近づけるようにしたいと思っています。

佐々木委員：

70～80 歳くらいの方に今よく言われるのが、パソコンができないということ。昔は手書きの文書でも受け入れられたが、もう手書きではダメで、全部パソコンで書類を作ってほしいと言うので、今、老人会でそれが一番問題になっています。県老連でも最近、各老人会の団体や市町村に、何人かパソコンができる人をとっています。老人会でも公募して人材を集めていきたいと言っているので、市も考えていただきたい。なぜかというと、老人クラブがどんどん減ってきています。今でも休会が2～3件出てきていて、理由を聞くと、会長が回ってきた時に、パソコンが出来ないからどうにもこうにもできないと言われる。ある人は、固定電話があってもFAXがないので、文書を郵送する以外の方法がない。緊急の際、固定電話を頼るしかない状態になっています。市としても支援を考えていただきたい。市老連としては、今、奈良に事務局を持たせてもらい、こちらとしては大助かりでありたいが、各地域の各団体の方からはどんどん止めたいという意見が出てきています。なんとかくい止めようと思い、来年に向けて4つや5つ、いろいろなことをしていますが、人材不足で休会・脱会が増えています。こちらも考えていけないのではと思っていますので、よろしくをお願いします。

吉川委員：

細かいところを言うようですが、54 ページに「成年後見制度の普及や利用促進」と書いてあるのですが、成年後見制度は「制度」だけで「後」という字はいらないと思います。誤字脱字が多い。特に大きな誤字といいますか、63 ページの「施策の方向性の「促進」を「推

進」だとか、72ページの「施策の方向性」の「保全」を「安全」だとか。一番大きなタイトルを間違えるのはどうかと思います。再度、見直しや添削をされてはどうですか。最後に一つ、希望ですが、83ページの「生涯輝くまち」の中で、中学生の「今住んでいる地域の行事に参加している児童生徒の割合」の目標値が、55%になっています。前期の基本計画の2017年度35.7%に比べるとかなり目標値は高く設定されているとは思いますが、やはり将来の宇陀市、「輝くまち」を目指すというのであれば、中学生もある程度、郷土愛に燃えた意識を持っていただきたい。それに対して目標値をもう少し上げて頑張るってどうか、せめて6～7割まで上げてはどうでしょうか。

福山委員：

小学校・中学校では、GIGA スクールということでパソコンを一人一台持たせてもらっている状況であり、コロナ渦においては、かなりありがたいことだと思っています。しかし、実際のところ、子ども達が一人一台与えてもらったことで、実は家に帰って勉強しているのではなく、YouTube やいろいろなネットで制限がかけられず、そういった動画や情報を見ていると聞いています。もちろん親として管理はしているが、管理しきれず、かなり寝不足になったり朝起きられなかったり、それに繋がる不登校まで増えてきているという部分もあります。GIGA スクールを立ち上げたからには、専門的な対策チームが必要だと思います。今、企業誘致も謳われているので、そういう ICT を使った「まちづくり」、農業を含めてですが、それを計画に盛り込んではどうでしょうか。PTA の活動を通じて感じているのは、先生方の負担がかなり大きいということ。いろいろなことがたくさんあり教育現場が変わってきているのもありますが、考えていただきたいのは、書類作成や授業資料の作成が先生方の負担になっているので、先生の働き方改革をすることによって子ども達に接する時間が増えてくると思います。今、大阪では推進されていると思うので、教科書が一緒であるなら ICT を使って、企業の方が専門的に作ったものをダウンロードしたり、発達障害の子どもだったら、字が大きかったら読みやすいなど、資料が多種類にわたるので、そういうものがダウンロードできたりするとよいのでは。コロナ渦で生徒も先生も疲弊していると感じているので、その辺りのことも ICT を活用する中で考えていただいて、なおかつ、お年寄りがパソコンを使えないということも、そこに依頼をすることでできるという部分的ではなく、町全体を捉えた ICT の活用を検討いただきたい。あとは、榛原地域で、こども園の整地をしていこうということが書かれていますが、未就園児・未就学児の子育て支援センターの場所、ここでは地域ごとの子どもの人数は掲載されていませんが、現状、菟田野に子育て支援センターがありますが、人数が多い地域や行きやすい地域があり、菟田野では室生の子どもは行きにくいと聞いています。これを機会に、コンパクトシティではないが、便利な所にこども園を作るのであれば、子育て支援センターも便利な所に建て替えを、合わせて検討いただきたい。建物の建てかえや改修をするのであれば、有意義な形で税金を使っていたいただきたいと思います。

奥田委員：

普段は障害福祉の仕事をしていますが、ここでいろいろな方の声を聞いて思うところがあります。

人材に関わる何かで困っているのは、地域の共通の課題だと思います。障害福祉の現場での人材不足は誰もが知っていることであり、人口減少にもつながっていると思います。福祉を支える側の人口が増えることで、宇陀市内の人口もおそらく増えていくだろうと思います。利用できる事業所がないとか、支援が足りない、施設が足りないから市外へ行くという方ももちろんいて、医療が不足しているから宇陀市外の県外でかかっているという方もおられます。そういう所からも人口の流出を防ぎ定着を考えていくと、資料 39 ページの「まちづくりの成長戦略」にある「はたらく」「くらす」「つながる」で、資料 41 ページの「宇陀ではたらく」というところに、働く人を確保するための「人材育成」などを盛り込んでいけば、計画や事業の対策としてつながっていくのではないかと思います。雇用促進は各ページに書いていますが、ただ農業や地域の定住に書いていることが多く、福祉と医療の人材には繋がっていません。もちろん、商店や企業のことでも大事だが、最初に、林業や農業にどれくらいの従事というか産業の割合があるのかと言われたが、逆に福祉にはどれくらいあるのかと思いました。福祉は、高齢化が進むと必ず付随してきます。今、おっしゃった引きこもりの問題も、人を支えるというところには人材が必ず必要になります。そういう人たちが定住することで、人口も増えていく、もしくは減らないという所に繋がるので、各事業や計画をそういう所に紐付けていけば、総合計画自体が宇陀市政の運営にということ、最初のページにも書いていたので、そこに繋がっていくのかなど。各行政の担当課や、私たちが仕事をしている場に、制度や法律など行政担当の窓口で縛られないような対策ができると、これを見たら「その発想ですればいいのか」と思うような計画になれば、活用の仕方が広がると思います。

佐々木委員：

36 ページは白紙だが何が入るのですか。

事務局：

今はまだレイアウトが固まっていない状態です。デザイン・レイアウトそういったもので、最後は空白のないよう考えています。

伊藤議長：

まだ若干時間がありますが、今日は細かい所までご意見いただきましたし、全体に対するご意見もいただきました。特に最後の奥田委員のご意見はとても重要なことで、よく「まちづくりは人づくり」と言うが、町の課題を解決するためには、まず担い手をしっかり確保しておかないといけない。それはどの分野でも同じことだと思います。今日はたくさんご意見

いただいたが、他に何かありますか。全体を通してでも、感想でも結構です。

松石委員：

この基本計画の冊子だが、前回よりかなり見やすくなり、充実している印象があります。最後の誤字脱字については、訂正していただいたらよい。デジタル化やカーボンニュートラル、そういったSDGsの取組みなど、今の政界情勢をかなり意識した基本計画になっているのは良いことだが、活字・文字が独り歩きしないよう、これにぶら下がる施策がたくさんあるなら、実現できるような具体策についてしっかり議論していただき、本当の都市計画になるようにしてほしいと思います。

丸岡委員：

前期の計画よりもさらにパワーアップした内容で、中身も読みやすくなっている。ただ、全部を読みこなそうとするとかなり時間がかかるので、おそらく読み終わっていない人もいるのではないかと思います。そういう意味では、ダイジェスト版を出すというのを検討されていますか。

事務局：

ダイジェスト版については、基本的には全戸配布しようと思っています。来月、最後の審議会をさせていただきますが、その時には間に合わないと思います。まずは本書の計画を作った後に、そこからピックアップしてダイジェスト版を作ります。こういった案でというのを、皆さま方にお示しできたらと思っています。おそらく、新年度に入ってからになりますが、そういった形のスケジュールを考えています。

梶本委員：

次の時に話をするつもりだったが、今言われたことに関連して、この総合計画は行政で頑張る目標であるが、市民も協力することがたくさんあると思います。私たちもここでSDGsという言葉を知り、内容を理解できたが、一般市民の方はまだ「SDGsとは何か」と疑問に思われていると思うので、SDGsとは17の項目で、資料10ページ～12ページが非常にわかり易くなっているので、これを工夫して、これだけを別扱いして、こういう取組みをしているということを日常目にしてもらうのも大事では。日常目に付くところに貼れるようなものを検討いただき、一枚ものにして概要版と一緒に送り、それを目にするにより、我々もこういうことを努力すればいいと、市民の方も日常生活の中で必ず協力できる部分があるはずなので、目に付きやすいような手法を考えていただきたい。そして市民の方々にSDGsという言葉と内容、取組み方法を周知することも必要ではないかと思うので、ご検討いただきたい。

事務局：

前回は A4 で 12 ページの概要版を作っています。SDGs については、市が広報紙を発行していますので、そちらも活用しながら、少しずつ市民の皆さま方にお示ししていきたいと思えます。市民の皆さまに出す前に、審議会委員にお示しできたらと思っています。

伊藤議長：

多くの委員の方から、見やすくなっているという意見があり、非常に良いことだと思います。まだ誤字や入っていない写真やイラスト等あるが、次回までに仕上げてくださいたい。たくさん意見がありましたが、対応できるところは対応して、宿題もあるが次回までに回答をお願いします。全体的な意見としては、よくまとまっています。ただ、色目が見にくい。デザインを検討してください。コロナ禍であるので、できるだけ時間の短縮をと思いますので、後でお気付きのことがあれば事務局へ伝えて、上手く対応してほしいと思います。特に意見がないようですのでこれで終わりにします。

3. その他

事務局：

来月 2 月 25 日（金）午後 2 時から、第 5 回目の審議委員会を開催させていただきます。今回は最後の審議会となります。事務局からは以上です。

伊藤会長：

次回が最後なので、ぜひご出席いただきたいと思えます。特に連絡がないようでしたら、これで私の役割を終わらせていただきます。

事務局：

進行、ありがとうございました。本日、貴重な意見を沢山いただきました。まずは、誤字脱字が多く基本的なミスもありますので、修正させていただきます、今回は意見をすべて反映できるように内容にしていきたいと考えております。長時間にわたりましてご審議いただきありがとうございました。以上をもちまして第 4 回総合計画審議会を終わります。

以上